

研究主題

「学び合い」を通して、学びを深める 授業の創造 ～見方・考え方を働かせた「学び合い」はどうあればよいか～

◆ 私たちが目指す「学び合い」のある授業とは

子供一人一人が、① 切実な「問い」をもって、各教科の特質に応じた
② 「見方・考え方」を働かせながら、他者と考えを交換し合って、自
③ 分の言葉で表現しながら「問い」を解決するとともに、次の「問い」
④ に質を上げていく子供主体の「学び合い」のある授業
 ⑤



◆ 見方・考え方を働かせた「学び合い」を活性化させるためのポイントの整理

過程		ポイント		子供の姿
導入	問いをもつ	①切実な「問い」をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子供の「思い」や「願い」を引き出し、「問い」をもたせるための導入の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡ ・既習事項の振り返り・確認(ノート、掲示物等) ・具体物の提示 (ICT機器の活用, 複数資料の比較等) ◇ 子供が「解決したい」と思う学習課題の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡ ・子供にとって身近な課題 ・適度な難しさと、解決の見通しをもてる課題 	<p>昨日は〇〇を勉強したんだっ たね。 はやく新しい問題に挑戦したいな。</p>
		②各教科の特質に応じた見方や考え方を働かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各教科の特質に応じた「見方・考え方」が働く学習課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ➡ ・多様なとらえ方や解決方法がある課題 ◇ 学習の見通しをもたせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡ ・何をどのように解決するかの見通しをもたせる。(結果の見通し, 方法の見通し) 	<p>あつ、テレビでこの見たことあるわ。 きのうやったのと、どこが違うんだろう。</p> <p>なぜだろう？ やってみたいな。 調べてみたいな。 この方法で考えてみたいな。</p>
展開	学び合い 自力解決	②各教科の特質に応じた見方や考え方を働かせる。	<p><自分の考えをもつ場></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 子供に自分の考えをもたせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡ ・時間を十分に保障し、個に応じた適切な支援に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた助言, 称賛する。 ○ 既習内容, 例を提示する。 ○ 考えの理由・根拠を書かせる。 ◇ その後の展開を予想した机間指導 	<p>とても面白い考えだね。先生に説明してください。 ここところは前の時間で使った方法が使えるんじゃないかな。 自信をもってやってみてごらん。</p> <p>→裏面に続く</p>

展 学 開 い	び 合 い	集 団 解 決 (ペ ア ・ グ ル ー プ ↓ 全 体)	<ul style="list-style-type: none"> ➡・取り上げる内容・順序の確認 ・集団解決時のグルーピング等 <p><自分の考えを広め・深める場></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ペア・グループでの「学び合い」の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡・(発達段階に応じた)話合いのルールについての支援(話型カード) <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いの考えをしっかりと聞く。 ○ 自分の考えと比べる。 ○ 理由や根拠を基に自分なりに判断する。 ➡・目的に応じたグループ編成(同じ考えをもつ集団、違う考えをもつ集団) ◇ 学級全体での「学び合い」の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡・子供の思考の想定(子供の思考を想定し指導案に明記する。) <ul style="list-style-type: none"> ○ 話合いの論点の明確化・焦点化 ○ 話合いに全員参加させる支援(考えを引き出す、つなげる、切り返す) ➡・子供の思考を可視化 <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートの工夫 ○ ICT機器の活用 ○ 掲示の工夫(吹き出し、色分け、小黒板の活用等) ➡・教師による切り返し・問い返しの発問の準備 	<p>私はこう考えました。理由は…どうしてこんなふうに考えたの?</p>  <p>ぼくは、こう考えたよ。この考えとこの考えは似ているね。</p> <p>この方法だととても簡単だね。ぼくにもう一回説明して。わかったぞ。この方法を使うと…</p>  <p>どうしてそう言えるのですか? どう考えたのですか? 別の言い方で言えますか? どういうことですか?</p> 
		再 自 力 解 決	<p>④自分の言葉で表現させる。</p> <p><自分の考えを再構築する場></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の考えを整理する場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ➡・自分の考えを言葉でまとめる時間の確保(最初の自分の考えと比べる。友達の考えのよいところを見つけ生かす。ねらいとまとめの整合) ◇ 学習したことを活用する場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ➡・適用問題、類似問題への取組 	<p>〇〇を学習して口口に気付いたよ。〇〇使って練習問題解いたらできたよ。</p> 
終 末	ふ り か え り ・ ま と め	<p>⑤次の「問い」へ質を上げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学習の振り返らせ方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡・振り返りの視点の明確化(自分の成長、友達のよさ、学び合いのよさ) ◇ 新たな学びに目を向けさせ、次の「問い」に気付かせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➡・次時の教材の提示、学習内容の紹介 	<p>〇〇さんの説明はとても分かりやすかったわ。今度は、〇〇に挑戦してみたいな。できるって楽しいな。</p> 	

【研究同人】

(本校職員) 下松勝浩 加藤研一郎 粟屋敏郎 井神由衣圭 池谷俊樹 伊東奈央 釘田康恵 草原大 古城早紀 坂元佳子 佐多雅美 佐藤愛 園田竜聖 高橋誠 武石健太郎 竹尾隆浩 溜勇一 田村由布子 政良子 中原まりな 福里智子 福留由美 松清達也 南涼子 村井桂子 吉ヶ別符直人 吉田雄二 米重優子 赤崎桂子 黒木舞奈美 佐々木聖 吉川美保 下戸愛子 崎坂百合恵 三谷弘美 坪山麻衣子 樋口美紀子 川路昭一 梅北ひとみ 西尾歩 福丸璃紗 金沢和代

(共同研究員) 津之地美帆(祇川小) 吉元梓(東原小) 小窪卓也 作井由希乃(笠野原小) 四元大輔(田崎小) 前田剛(西原小) 前田賢治 福島光二 馬渡賢治 樋口貴貴(西原台小) 宮田哲生(花岡小) 安田裕樹 郷原健一郎(大始良小) 有嶋さつき(西俣小) 小倉康夫 福倉遵 泊晃平 山内優佳(細山田小) 松山讓(吾平小) 中山瞳(垂水小) 田中剛志(上小原小)

国語科

言葉による「見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 言葉と言葉の関係を言葉の意味や働き、使い方などに着目して
叙述を根拠に話し合い、言葉への自覚を高め合うこと。

重点的に取り組んだポイント

- 学習課題の工夫
- 子供の思考の可視化
- 「国語の言葉」の活用

POINT 1 学習課題の工夫

子供たちが解決したいと思う（必然性、面白さ）課題であるとともに、子供が、目的意識をもって追及していくことができる学習課題の設定を工夫する。

例)「ごんと兵十の気持ちはどう変わったのだろうか」
(4年：読んで考えたことを話し合おう「ごんぎつね」第9時)
→ごんの視点から兵十の視点に変わった「視点の転換」に目を付けて(見方)
なぜここだけ視点が変わったか(考え方)を考え、兵十の気持ちの変容を
とらえた。

- **何を指すか**(見方：どの叙述、言葉に着目させるか。考え方：どれとどれを比較させるか。どれとどれの因果関係を考えさせるか。等)がはっきりわかる学習課題を設定する。

POINT 2 子供の思考の可視化

子供に働かせてほしい言葉による「見方・考え方」ならびに、子供が働かせた言葉による「見方・考え方」を見える化(顕在化)し、意識できるようにする。

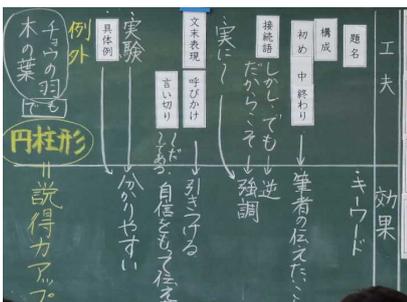
例)「ちいちゃんのかげおくり」(4年)…反復表現、
修飾語、助詞、名前、色彩表現、情景描写などに線を引かせたり、
自分の考えを書き込ませたりした。
例)「じどうしゃくらべ」(1年)…拡大した全文を教室に掲示して、
自動車の「つくり」「はたらき」の関係を全員で確認しながら学習を進めた。(右写真→)



- 子供の考えを**ワークシート**に書き込ませたり、書き込みのある**教材文**を掲示して、それを見ながら全体で話させたりする。
- 再自力解決の場面で、教師・仲間との学び合いによって深まった自分の考えを**文章化**して伝え合う。

POINT 3 「国語の言葉」の活用

子供が、学習内容をよりよく(深く)理解するために、「中心人物」や「心情」などの「国語の言葉」を活用して理解を深めていく。さらに、子供が「学び合い」の中で自ら活用できるようにする。



例)「生き物は円柱形」(5年)…「構成(初め・中・終わり)」「呼びかけ」「言い切り」「具体例」「例外」等の言葉を理解し、これらの言葉を使って、筆者の説明の工夫とその効果について話合った。(←左写真)

- 基礎的・基本的な知識・技能として学習用語を提示、指導するとともに、これらを活用して、自分の考えをもたせたり、表現させたりする。

- ◆ 本時のねらい
言葉に注目し、人物の気持ちを想像させ、音読劇に生かす。
- ◆ 働かせたい「見方・考え方」
二つの場面のがまくんの「ああ。」に着目（見方）して、比較する。（考え方）
- ◆ 本時案

週程	学習活動	教師の働きかけ（※評価）
問 い を も つ 10分	1 この単元で学習する漢字の練習したり、音読をしたりする。	○ 効果的に練習をするために ICT を活用させる。
	2 音読名人の道への課題に取り組む。 一かい目と二かい目の「ああ。」はどうしてちがうのだろうか。	○ 音読の違いを比較させるために ICT を活用し、注意深く聞かせる。 ○ 音読劇に生かすことを理解させるために、たれの言葉なのかを確認させる。
自 力 解 決 学 集 団 解 決 再 自 力 解 決 15分	3 1回目の「ああ。」と2回目の「ああ。」の違いを考える。 ・「ああ。」の近くにある言葉に注意しよう。 ・挿絵もヒントになるかな。 ・書いてあることも大切だよ。	○ 気持ちを想像させるために前後の会話文や地の文に注目させたり、動作化させたりする。 ○ 比較するためにワークシートに記入させる。
	4 友達のと比較する。 ・1回目の「ああ。」はお手紙をもらった前の「ああ。」だな。 ・2回目の「ああ。」はお手紙をもらった後だ。	○ よりよい考えにまとめさせるために友達の見解も積極的に取り入れるようにさせる。
5 友達のと比較から再度、自分の考えをまとめる。 ・教科書に書いてあることを比べてまとめると分かりやすいな。 ・「ああ。」の違いがはっきりしたぞ。	○ 考えが変わったところをはっきりさせるために、ワークシートに書いた最初の考えから変わったところを赤鉛筆で記入させる。（※評価） ○ 参考にさせるために ICT を使って、ワークシートを掲示する。	
ま と め ・ ふ り か え り 20分	6 まとめる。 かなしいときとうれいときの気持ちをそうそうしながら読んでみるから。	○ 考えの根拠となる文を明確させるために、全体でも確認させる。
7 学習を振り返る。	○ 「学び合い」の良さを確認させるために、振り返る。	
8 音読の練習をする。	○ 学習したことを生かすために、音読の練習に取り組ませる。	

① 学習課題の工夫
2つの「ああ。」という言葉に着目させ、それぞれ発した言葉の意味の違いを比べて、音読の仕方を考えていく。

② 思考の可視化1
ワークシート（教材文・挿絵）に線を引いたり、挿絵の違いを比較して書き込んだりしながら、二つの「ああ。」の違いを考えていく。

自分の書き込みと、友達の考えを書き込んだワークシートをじっくり見ながら、真剣に考えている。



② 思考の可視化2
赤鉛筆で記入したところを、見たり読んだりしながら自分の読みを確認していく。



声の大きさや表情を変えながら、「ああ。」を言い合い、かえるくんのやさしさやガまくんの喜びの表現の仕方を話合っている。

会話文のはじめの「ああ。」とおわりの「ああ。」はかえるくんの心情が変わっているから読み方を変えないといけないね。

③ 「国語の言葉」の活用
単元の中で、学習用語「国語の言葉」を理解・習得させて、それを活用して自分の考えをもたせたり、「学び合い」の中で表現させたりした。



二人の登場人物のやさしい心情が伝わってきて、とても幸せな気持ちになったわ。



2年の「国語の言葉（文学的文章）」の例
時、場所、登場人物、心情の変化、はじめ・中・おわり、語り手、会話文、繰り返し、作者、さし絵、あらすじ……等

算数科

数学的な「見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 学習課題（問題）を数量や図形及びそれらの関係などの着目して根拠を基に、筋道を立てて考え、解決していくこと
重点的に取り組んだポイント

- 既習事項の確認
- 思考の想定
- 類似問題の提示

POINT 1 既習事項の確認

子供たちは、今まで学習したことをよりどころにして学習を進めていく。問題解決に向かって主体的な学び合いが行われるよう、導入段階で本時で活用する既習事項（**数学的な見方・考え方**）の確認をしっかりと行う。

- ミニプリントで既習事項を確認する。
- フラッシュカード、電子黒板などを活用して、声出しによる振り返りを行う。（電子黒板での振り返り→）



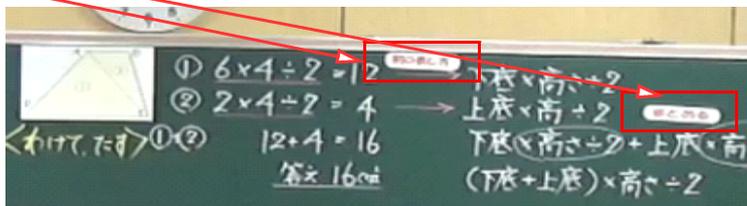
POINT 2 思考の想定・可視化

子供たちが、授業の中でどのような「問い」をもつか、その解決のために、本時でどのような数学的な「見方・考え方」を意識して働かせるのかを想定する。

- 子供の「問い」を想定し、数学的な「**見方・考え方**」がより働く学習課題を設定する。
- 数学的な「**見方・考え方**」の系統表をもとに、本時で働かせたい「見方・考え方」を明確にして授業を行う。
- 数学的「**見方・考え方**」カードを掲示し、思考の可視化を図る。

算元・算方・算式	一つ分	分ける	別の表し方	同じように	どうして	そろえる
大きい数	一札、一冊や一冊を一つ分けて表す。(P11)	何冊も自分の話していくつ分？(P18)	10に集めた数は10個に同じ、110にした数は、10でわった数と同じ。(P16)	数が10に集まるると一つ上の位になる。(P11)位の中は、一、十、百、千の繰り返し。(P14)		次が何組かそろえて書く。(P18)
折れ線グラフ						2つのグラフの値をそろえると比較し。(P37)
2けた÷1けたのわり算		わり算ができるように、わられる数を分ける。				
1けたでわる		600÷3は、600を100まわし				

(数学的な「見方・考え方」系統表一部4年↑)



(赤枠内は「別の表し方」、「まとめる」と書かれた「見方・考え方」カード)

◇ 本校算数科が大切にしている9つの数学的な「見方・考え方」
 「一つ分」「分ける」「別の表し方」「同じように」「どうして」
 「そろえる」「まとめる」「変える」「きまり」

POINT 3 類似問題の提示

再自力解決場面で、学習課題に対してもう一度解き方を説明させたり、類似問題に取り組みせたりすることで、「学び合い」によって高まった数学的な「見方・考え方」を活用させる。

- 解き方を説明させるときは、「どこに目をつけて、どのように考えて解いたのか」について簡潔に説明させる。（文型の提示）
- はやく類似問題を解き終わった子供は困っている子供に助言をさせる。



(縦り下がりのあるひき算の仕方を説明する様子)

算数科の
授業実践

「図形の面積」(学校図書 5年)
第8時(全14時)

◆ 本時のねらい

既習の図形の面積を求める際に用いた公式や考え方をもとに、台形の面積の求め方を考え、求積公式について図や式、言葉を関連させながら説明することができる。

◆ 働かせたい「見方・考え方」

本時まで学習した公式や、図形を多角的な視点で捉える「動かす」「変える」「分ける」「(式を)まとめる」といった数学的な「見方・考え方」に着目し、互いに話し合う活動を通して、台形の正しい求積方法や公式を説明できるようにする。

◆ 本時案

過程	学習活動	教師の働きかけ ※ 評価
1 問いをもつ 5分	既習事項を確認し、本時の学習課題を確認する。 台形の面積は、どのようにして求めたいのかを話し合う。 学習の進め方を確認する。 1人→グループ→全体→1人	フラッシュカードを使うことで、求積公式(正方形・長方形・平行四辺形・三角形)を復習できるようにする。また、これまでの学習で用いた考え方も掲示しておくことで、既習事項の確認が図形の一部を隠しながら実物を提示することで、台形の中には三角形が隠れていることに気付くことができるようにする。
3 学び合い(学び合いシート)	提示された台形の面積の求め方を話し合う。 「1つの角を隠して(変える)という考えがあった。」「平行四辺形と対角線のように、線が通ると求めやすくなる。」「面積を分ける考え方で求めてみよう。」「1つの角を隠すと、三角形が2つできる。」「台形の面積は、三角形×2で求められる。」「台形の面積は、平行四辺形×2で求められる。」「台形も、面積を求める公式はあるのかな?」	マス目付きの図形を使って考えよう。マス目がない図形に比べて、面積を求めることができるようになる。この解決策を参考に、これまで用いた考え方が使えるようにする。考え方を図、式の3つで考えをまとめることで、自分の考えを明確にし、小グループでの課題解決(学び合い)につなげることができるようにする。一定時間が過ぎたら、求め方が分からない人は「どこが(何が)分からないか?」を明確にさせて聞かせる。分かる人には説明させることで、全員が自分の考えをもつことができるようにする。説明する際は、図や式、言葉を関連づけたり、指差しをしたりして説明すること。聞く際は、分からないところを質問しながら聞くこと等の、話し合いの技能や態度面については全体で共有できるようにする。
5 集団解決 35分	公式を知り、なぜ公式が成り立つのか3~4人グループで話し合う。 「○○君に、台形の面積を求める公式が分かるか聞いてみると、『(上底+下底)×高さ÷2』と答えた。でも、先生が小学生で習った公式は、『(上底+下底)×高さ÷2』だったよな。どちらの公式が正しいのかな?」	既習の平行四辺形や三角形を求積した際の考え方や求積公式をもとに、図や式、言葉を関連付けながら説明することができるようにする。ここで「上底」「下底」という語句を図示しておき、公式について話し合う活動につなげることができるようにする。同じ考え方で求積した3~4人のグループで話し合わせることで、お互いの考えを補充し合いながら公式作りを行うことができるようにする。またその際は、自力解決で書いた図や式をもとに意見を伝え合うように助言する。式に出てくる2や4、4が台形のどの部分にあたるのか図に書き込ませたり、「÷2」は何を意味するのか考えさせたりすることで、求積に必要な条件をおさえることができるようにする。
6 再自力解決 5分	公式を用いて、類似問題に取り組む(個人)。 (6+4)×6÷2=30 A.30㎡ (8+3)×4÷2=22 A.22㎡	再度自力で類似問題に取り組ませることで、学び合いによって深まった考え方を生かすとともに、児童の理解度を見取ることができるようにする。早く問題を解き終わった児童は、自由に教室を立ち歩き、困っている児童の思考の手助けをするように助言する。
7 まとめ 5分	本時のまとめをする。 台形の面積は、図形を2つの三角形に分けて足したり、平行四辺形に形を変えて半分にしたりに求めることができる。 公式: 台形の面積=(上底+下底)×高さ÷2	「今日の授業で分かったこと」として本時のまとめをさせることで、早く、簡潔にまとめることができるようにする。まとめ方に困っている児童には、文型を提示することで、「台形の面積は、～すると求めることができる。」に沿った形でまとめることができるようにする。
8	次時の学習の予告をする。	

① 既習事項の確認
フラッシュカードで既習事項を確認する。
既習の考え方を教室掲示する。

② 思考の想定・可視化
子供にどのような数学的な「見方・考え方」を働かせるかを想定し、支援する。

- ・台形の一部を隠した実物
- ・マス目付きの図形
- ・自分で表した図や式
- ・「分ける」「変える」カード
- ・多様な学び合い(ペア、小グループ)

② 類似問題の提示
「学び合い」で深まった考えを生かす。
子供一人一人の数学的な「見方・考え方」を見届ける。



(ペアでの学び合い↑)



(2つの図形をつなげて既習の図形に↑)



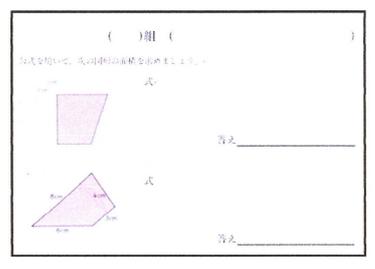
(同じ考えでグループを作り、公式づくり↑)



(「見方・考え方」を見届ける↑)



(思考の流れに沿った板書↑)



(類似問題↑)

**外国語活動
外国語科**

外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 相手意識をもち、既習の学習を含めた自分の知識を生かしながら、状況・場に応じた適切な表現を考え、お互いの気持ちについて伝え合うこと。

重点的に取り組んだポイント

「Small Talk」の充実

POINT 1 場面設定の工夫

- ① Warmup段階・・・本時の学習内容に
関係する教師どうし、教師と子供の対話を通した新出表現の導入や既習事項の確認を行う。(コミュニケーションクラスルームイングリッシュ)
- ② Activity段階・・・既習事項に本時の学習内容を使って子供どうし、教師と子供で対話を行う。
 - 子供にとって身近で、興味関心が高まるような題材の工夫
例) アニメ、スポーツ、食べ物、学校生活など
 - 会話内容を視覚的にイメージできるように、挿絵カードや動画、プレゼンテーションソフト等の活用



Small Talkって、本当に言いたいことが言えるから楽しいな。



Small Talkって、相手がなんて言ってくるかわからないからドキドキするわ。



(子供の好きなバスケットの動画)

POINT 2 コミュニケーションクラスルームイングリッシュの活用

Warmup(導入)段階でクラスルームイングリッシュを確認しコミュニケーション活動(Small Talk,インタビュー等のActivity)の中で使えるようにする。

- 共感的な受け応えができるようになる。
- 会話を円滑にすることができるようになる。
- 毎時間の授業で設定(3~6年生)
- 「good」「nice」「cool」等、共感的で自己肯定感を高めるような表現を学ぶ。

5月7	誕生日はいつ?①	Wow. Perfect.
	誕生日はいつ?②	Wow. Perfect.
	誕生日はいつ?③	ほめ言葉やMe too.
	誕生日はいつ?④	Cool. Cute.
	誕生日はいつ?⑤	Cool. Cute.
	誕生日はいつ?⑥	Here you are. Thank you.
夢の時間割①	Really? Of course.	

クラスルームイングリッシュ計画表一部(5年5月)

POINT 3 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫

- ① ジェスチャーを付けての発音、リズムチャンツなどによる単語・会話等の繰り返し練習を行う→意欲的に楽しく取り組む姿が見られる。
- ② 本時授業で気を付けるポイントの確認をする。
→視点を意識した積極的な姿が期待できるようになる。
例)「目を見て」「笑顔で」「声の大きさ」等(活動の視点→)
- ③ 活動のよさを実感させる振り返りを行う。
- ④ 対話を続けるためのポイント
(つもんする・んそうをいう・りかえす)を設定する。
 - 繰り返し、ジェスチャー、リズムチャンツ
 - 活動の視点、対話を続けるポイントの提示
 - 終末での振り返りの実施



(体を動かしながら発音↑)

POINT 4 学び合いの場の設定

子供たちが、どう表現していいかわからない場合に、子供が知っている知識を生かして考える場を設定する。

- 1回目のSmall Talkと2回目のSmall Talkの間に子供自身が伝えられなかった表現や伝えたい表現を確認し合う(学び合う)時間の設定

◆ 本時のねらい

- ・ 教師や友達と積極的にコミュニケーションを図ることができる。【学びに向かう力、人間性等】
- ・ オリンピックやパラリンピックの種目名を言うことができる。【知識・技能】
- ・ 既習事項を用いて、自分の好きなスポーツについて友達と会話を続けることができる。【思考力・判断力・表現力】

◆ 本時案

時間	主な学習活動	指導上の留意点	基本的な語彙・表現準備
10	《Warm up》 1 挨拶をする。 2 歌を歌う。(チャンツ) ♪ マラソンじゃなくでmarathon 3 クラスルームイングリッシュを練習する。 4 スポーツのヒントクイズをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気、曜日、時刻、日付、時間割などを使って児童とやり取りをする。 ・ CDをかけて一緒に歌う。 ・ 一覧表を参照する。 ※ How do you say ~ in English? 	【スポーツのヒントクイズ】 答え: baseball Hint: we use one ball. Hint: we have nine players. Hint: we play this sport on the sports ground. 答え: handball Hint: we use one ball. Hint: we have seven players. Hint: we play this sport in the gym.
28	《Activity》 6 【Small Talk】 ・ ペアを作り、好きなスポーツについて、1分間対話をする。 ・ 終わったら、ペアを変えて、2回目の対話を行う。 7 スポーツに関する英語をチャンツで練習する。 8 We Can!2 P44 Let's Watch and Think2を開く。 9 文字に親しむ。 ① 文字学習資料1⑨ ・ 語順への気付き。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始める前に、対話が続けられたポイントを確認する。 ① 質問する。 ② 感想を言う。 ③ 繰り返す。 ・ 2回目を行う前に、1回目と言えなかった表現や2回目で言いたい表現を確認する。 ・ リズよく表現を練習させる。 ・ 活動に入る前に、写真を見ながら、児童と簡単なやりとりをすることで、見通しをもって活動ができるようにする。 ・ 2つの例文を開き、主語が文の最初に来ていることに気付かせる。 	athletics, archery, badminton, baseball, basketball, boxing, canoe, cycling, diving, football, judo, karate, rugby, sailing, surfing, swimming, tennis, table tennis, volleyball, weightlifting, wrestling, Para athletics, wheelchair basketball, football's a side, Para swimming, wheelchair tennis, sitting volleyball
7	《Review》 8 学習したことを振り返る。 9 挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートを使って学習を振り返らせる。 ・良かった点を認め、称賛する。 	【準備】 ・ 振り返りカード

② クラスルームイングリッシュの活用

① 場の設定の工夫

- ・ 身近で、興味関心のあるスポーツを取り上げた。
- ・ 挿絵カードで視覚的にイメージさせた。(オリンピックピクトグラム↓)



③ 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫

- ・ □・か・△を確認
- ・ 教師対子供の対話から対話のイメージをつかませた。
- ・ 「振り返りシート」で活動を振り返らせ次の活動への意欲をもたせた。

④ 学び合いの場の設定

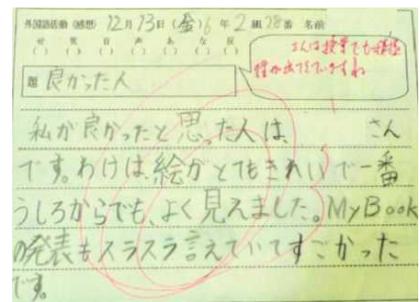
- ・ ペアで対話した後、言えなかった表現を子供どうしの小グループで話し合わせ、その後全体で確認した。

嫌いじゃないけど、それほど好きではないときって、どう言えばいいのかな。

That's not my favoriteってどうかな?



(ペアでのSmall Talk↑)



(振り返りシート↑)